

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470300860		
法人名	(有)日本サポート・リンク		
事業所名	色えんぴつ・鈴鹿		
所在地	三重県鈴鹿市下大久保町2290番地の12		
自己評価作成日	令和4年7月28日	評価結果市町提出日	令和4年8月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470300860-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470300860-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 4年 8月 18日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内に家庭菜園や果樹があり野菜の苗の植え付けや収穫を楽しんでいる。また収穫した果物をそのまま食べたり、利用者とおやつ用のゼリーを作ったりしている。サツマイモの収穫時は同事業所の利用者も参加して事業所間の交流にも繋げている。季節の花を育てて共同スペースに飾ったり、自然が多く残っている環境を生かして季節感を味わえる取り組みに努めている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺は畑や林が多く緑豊かな静かな環境で、周辺を散歩しながら近隣住民と挨拶や言葉を楽しむ地域に溶け込んでいる。コロナ禍が長くなり何事にも制限がかかる中、ホーム内で楽しもうと、職員が利用者の要望を聞きながらいろいろなイベントを実現させている。手作りの『流しそうめん』では、みんなが上手に麺を擀き上げ沢山食べて職員を驚かせた。『夏祭り』では職員が持ち寄った浴衣を着ておしゃれをし、スイカ割り・ゲームをして屋台風の食事を楽しんだ。その様子は全て家族にも配信され喜ばれている。折に触れ家族向けのアンケートを実施し、サービス向上につなげている。家族からは感謝の言葉が多く寄せられている。理念の「あなたらしく いつまでも」を礎に、一人ひとりの個性を大切に支援している事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を意識して一人ひとりに応じた声かけをしている。また日常の会話の中から聞き出した要望を共有して行事や催しに反映している。	理念の「あなたらしく いつまでも」を大切に、利用者一人ひとりの思いに沿った支援を目指している。現在、利用者からは気軽に要望を聞くことができているので、日常生活やイベントの中に反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩で出会う近隣の方と、挨拶や世間話をする程度である。近隣との交流は薄い地域ではある。コロナ禍でもあり積極的には交流していない。	コロナ禍で積極的に地域に出向いて行くことはないが、朝・夕散歩を欠かさない利用者が地域の住民と挨拶や言葉を交わして交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所を考えている方が施設見学に来られる時に介護での困りごとを聞いて助言している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で開催はしていないが、テーマに応じ家族や関係者に電話での聞き取りやアンケートを実施して報告書を作成している。	現在運営推進会議は開催していないが、偶数月に事業所の近況報告を纏めて報告書を作成し、家族・広域連合・包括・自治会長・民生委員に送付して意見を聞き、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じ市町の担当者に相談して助言や協力を依頼している。	何かあれば直ぐに市町の担当者に相談して助言をもらっている。最近では空床を包括に相談した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	最低でも年2回の研修を受けており、拘束にあたる行為は職員全員理解している。現在は夜間、早朝の職員が手薄になる時間のみ玄関、ベランダの施錠をしている。	職員会議の中で、3か月毎に身体拘束適正化委員会を開催している。職員研修では年2回拘束について勉強会を実施している。職員は身体拘束の弊害を理解し、日々のケアに活かしている。現在身体拘束の必要な事例はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加を促して知識を深めている。入浴時に不信な痣がないか気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加を促し知識を高める機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は重要事項に沿ってわかりやすく説明している。また改定の際も重要事項を変更して理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは日常の何気ない会話から要望を汲み取ったり、家族からは面会時に聞き取りを心がけている。必要な事は外部に発信している。	コロナ禍で家族の面会は原則禁止であるが、特別に必要な場合はその限りではない。折に触れ家族アンケートを実施して、家族の要望等を聞いている。毎月の便りには利用者の写真や担当者からの近況報告が載せられ家族から感謝されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回個人面談を行い、個々の目標・前年の目標の成果の聞き取り、職場に対する意見の聞き取りを行い、反映させられるものは即時反映させている。月の会議でも、職員からの提案・アイデアを聞き取り反映させている。	年1回の法人代表との個人面談の他、代表が事業所に顔を出した際に職員は気軽に運営に関する要望や意見を伝えている。特に備品に関するものが多く、必要なものは即時購入しサービス向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	週に2・3回は職場に顔を出し、職員とのコミュニケーションをとって、その時に問題点などを聞き出し、解決できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今の状況では、研修に出かけるのは困難の為、リモートではあるが、受講出来る環境は整備している。(仕事中、リアルタイムの受講は困難の為、いつでも受けれる研修も準備している)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	積極的に向いての交流はできないので、リモートでの研修のなかで、同業職員との意見交換は行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規の利用者が、コーヒー好きな方で、好きな時に自由に飲めるように配置したり、新聞を入れたり以前からの生活が継続できるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が遠方におられるため、ほしい物をすぐに届けられないので、何か欲しがれば購入して下さいとの要望あり応じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスがあればすぐに導入している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的に介護をするのではなく、一日を一緒に過ごす考えのもと接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じ家族に援助を依頼している。また利用者本人が家族に電話で話している事もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会は制限している。日常では懐かしい歌を歌ったり、昔話をして思い出してもらえようような支援をしている。	コロナ禍で面会は制限しているが、先日ある利用者の中学時代からの友人の面会希望があり、感染予防対策をしっかりとった上での対面となり喜ばれた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事や団欒の時に、相性の合う利用者同士が隣に座れるよう配慮している。また職員が間に入り橋渡し役になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院となり契約終了となられた方に対し、病院や家族に必要な情報提供を継続していた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事時間以外は自由に過ごしている。要望や意向があれば可能な範囲で実施している。	現在の利用者のほぼ全員が意見や要望を言葉で主張できるため、職員は可能な限り思いを聞き入れて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前の生活環境や、サービスの利用状態、好きな事、生活習慣等をできる限り詳しく聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを活用して一日の過ごし方を把握し共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議で個別カンファレンスを行い必要な支援について検討している。	利用者・家族の思いを聞きながら、常に利用者の現状に沿った介護計画になるよう支援している。毎月全員のカンファレンスの中でモニタリング・評価を行い、変化が無ければ半年毎に見直している。変化があれば随時変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はiPadを使用している。介護計画に沿った記録に心がけ定期的に見直しの際に検証している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度必要な支援が受けられるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、地域との交流は控えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に行ける方は1か月に1度受診している。行けない方は月2回往診してもらっている。また家族の希望や必要な検査等があれば、紹介状を書いて貰いスムーズに受診できるよう支援している。	入居時に本人・家族の同意を得て事業所の協力医がかかりつけ医となり、月2回の訪問診療を受けている。かかりつけ医以外の他科の受診には家族が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の訪問時に、気になる事や傷等を報告して、必要な処置や受診時に先生に相談したほうが良い事を助言して貰っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院側に施設での様子を詳しく伝えている。また必要な物は準備している。入院中も情報交換に努めている。退院時はカンファレンスの参加を依頼している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じ、施設で出来る事、出来ない事を説明して主治医を交え終末期の対応を相談している。状態が変わった時には、その都度家族の意思確認している。	入居時に事業所でできることとできないことを説明し、本人・家族の終末期の意向を確認している。状態が変わった時、終末期を迎えた時には、主治医を交えて話し合って今後の対応を確認している。要望があれば看取り支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍で集まった訓練はできていないが、個人的にリモートを活用して実践力に繋げている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の訓練は中止が続いている。回数は少ないが、施設内でいろいろな想定で避難訓練を行っている。	コロナ禍で今年度も地域の災害避難訓練は中止となっている。災害対策の担当職員の移動で思うような訓練はできなかったが、2回の避難訓練は実施できた。備蓄用の食料の試食会をして意見を出し合った。	災害はいつ起こるか分からない。そのため、いつ起こっても冷静に対処できるように役割分担を明確にし、机上訓練も交えていろいろな想定での避難訓練を回数多く実施されることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った声かけや話題を提供している。トイレや入浴の声かけは他者に聞こえないよう配慮したり、職員同士で利用者の対応等の相談をするときは名前を出さずイニシャルで話すようにしている。	耳のよく聞こえる人や聞こえにくい人など様々なので、職員同士の会話は特に注意している。トイレ・入浴への誘導なども人によって声掛けを変えて、一人ひとりの人格を尊重した方法を模索しながら進めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事の内容や食事の献立を決めてもらったり、行きたいところや、食べたいものを聞いて決めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間以外は決まっていないので、何をするか何がしたいかを、朝のお茶の時間に聞いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服が選べるようカタログを提供したり、広告を見ながら好きな物を聞いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ対策で、食事は職員と一緒に食べていない。誕生日は本人の好きな物を提供している。準備、片づけ等は一緒に行っている。	食事の約8割は調理済みの料理を業者委託でまかない、ご飯と汁物、朝食は職員が作っている。利用者の殆どが食べたい物を発言し、準備から片づけまで個々の能力に応じて参加している。好きなものが食べられる誕生日を楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は個人の希望に沿って調節している。業者を利用しているのでバランスは問題ないと思われる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回歯科診療があり、必要な方や希望される方は利用している。個人的にかかりつけの歯科受診している方もある。日常は毎食後実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間をみて声かけ誘導が必要な方や、トイレで何かしらして出てこない方や、男性の方は使用後の拭き掃除が必要であったり、一人ひとりに応じた支援をしている。失敗しても気にしないように配慮をしている。	排泄パターン表を利用しているが、殆どの利用者は自立でトイレを利用している。中庭に出て、生垣の所で排尿する習慣のある男性の利用者には頭を痛めているが、一人ひとりの個性に応じて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便できるよう、ヤクルトやヨーグルトを提供している。排便回数もチェックしており、必要に応じ便秘薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日置きに入る日を決めているが、拒否や汚染があれば臨機応変に対応している。できるだけ気持ちよく入って頂けるよう会話を持ったり入浴剤を入れたりしている。拒否される時は無理強いせず声かけする職員を変えたり、日を変えている。	週3回の予定であるが、その日の気分で拒否もあり、職員はいろいろと工夫しながら誘導している。季節の柚子湯・菖蒲湯や入浴剤も利用してのんびり入ってもらっている。一人で入る習慣の利用者もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本は朝起きて夜寝る事を促しているが、その日の睡眠状況によって好きな時間に休んでもらっている。室温、湿度の調整に気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医の提携薬局に内服薬の管理をしてもらっており、薬の内容、変わった時は説明があり職員は把握ができています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	炊事や洗濯ものが役割になっていたり、散歩で気分転換してもらったり、好きな時に自由にコーヒーが飲めるように配置したり一人ひとりに応じた楽しみ事ができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出しにくくはなっているが、収束している時に感染予防対策を取り、花見やイチゴ狩りに出掛けた。	穏やかな天候の日には事業所周辺を散歩して出会った住民と挨拶し、言葉を交わしている。コロナ禍が下火になった時に行ったいちご狩りは大変好評で、利用者の食べた量に驚ろかされた。ドライブを兼ねていろいろな花見も楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行きたい方に対し、自分の財布を持参して、買い物に出かけ自分で支払いしてもらった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があればその都度電話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や湿度に気を付けている。また天気の良い日は自然の風を入れたり、季節の花を飾ったり、行事に応じた飾りつけをしている。	リビングの掃き出しの窓からは中庭や周辺の林が見え、開放感がある。日中は自由に中庭に出て家庭菜園の野菜を見たり、土を触ることができる。大きな壁面には季節を認識できるように手作りのカレンダーをかけ、季節の花や手作りの飾り物をして楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや食卓の席を相性の合う利用者同士になるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた物を持ってきてもらっている。居室は本人が使いやすく過ごしやすいような配置にしている。	居室にはエアコンとクローゼットが設備され、その他の家具や調度品は本人が使い慣れた物や思い出の物を置いている。大切にしていたギターを飾っている利用者もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内を安全に移動できるよう手すりを設置している。自分の部屋、トイレ等わかるように表示している。		